

2024 ズバリ! 的中



世界史

慶應義塾大学

「キエフ」をヒントに「ドニエプル川」を
解答させる問題が的中

入試問題

2月15日実施
文学部 I (B)

I 以下の文章を読み、空欄 (A) ~ (J) に最も適切な語句またはアラビア数字 (算用数字) を記入し、下線部 (1) ~ (5) に関する各設問に答えなさい。

ロシアの国家的起源とされる統一的国家が成立するのは15世紀末のことである。1480年に「タタールのくびき」から脱したモスクワ大公国のイヴァン3世は、諸公国を征服してロシアの統一を実現し、ビザンツ帝国最後の皇帝の姪ソフィアとの結婚によって帝国の紋章である「双頭の鷲」を継承しつつ、自ら東ローマ皇帝の後継者として「ツァーリ (皇帝)」を名のった。さらに、⁽¹⁾ギリシア正教会の権威を背景として、その専制支配を強固なものとする。正教会の主教座は、14世紀にモンゴルの侵攻を受けて荒廃したキエフ (キーウ) からすでにモスクワに移されており、ビザンツ帝国滅亡後は「ツァーリ」が宗教上の権威をも独自に受け継いだ。彼の孫にあたるイヴァン4世になると、正式に全ロシアのツァーリを称しながら、ルーシの地にとどまらない「ロシア帝国」の建設へと舵を切っていく。専制政治を徹底したイヴァン4世は、大貴族を次々と抹殺したため、人々からは「雷帝」と恐れられた一方、士族層に支えられながら地方行政や軍制の改革を行い、全国的な身分制議會を創設するなど、中央集権化に努めた。イヴァン4世は、対外的にはヴォルガ川中流域のモンゴル系国家である (A) を征服し、南ロシアやシベリアへの領土拡大と、その地での⁽²⁾農奴制の土台構築を推し進めて、カスピ海へのルートを開いた。それ以降、ロシアのヴォルガ流域への入植が進んでいく。

ロシアの支配は、1581年にシベリア、1649年にはオホーツク海沿岸に達する。このように70年弱で太平洋に達した背景には、オビ川、エニセイ川、レナ川、アムール川などの河川水系と連水陸路の活用がある。ルーシの首領リューリクの後継者たちが、黒海に注ぐ大河である (B) 川の水系を利用してキエフ公国を打ち建てたように、キエフ公国の時代にはすでに丸太を横に並べて船に分水嶺を越させる連水陸路によって、縦の河川が横のつながりをもっていた。⁽³⁾17世紀になると、「柔らかな金」である毛皮、河川のチョウウザメ、海岸のアザラシやセイウチなどが人びとを遠隔の地に引きつけ、入植者に供される黒土が広がるシベリアのステップに移住する人が多く東へ向かった。17世紀にシベリア全域がロシアの支配下に入るが、その名称は16世紀後半、イヴァン4世時代の (C) が占領したシビル=ハン国に由来する。コサックの首領 (C) は、イヴァン4世からシベリア開発の許可を得た豪商ストロゴノフ家に仕えて、シベリア進出を主導した。新大陸の金探掘者と同じような熱気にとらわれて東方へと進んだ外来者に対する地元民の抵抗は、次々と粉碎された。世界有数の透明度を誇るバイカル湖畔近くに、中央アジアと極東を結ぶ交易の拠点となる都市イルクーツクが建設されたのは、17世紀半ばのことである。

河合塾

直前講習
早慶大世界史テスト
第1講 4 ①

④ ロシア・ポーランドを中心とする東欧史に関する次の文章を読んで、空欄 ① ~ ⑨ に適語を記入し、下線部A~Fについてそれぞれ問A~Fに答えよ。

ゲルマン人の民族移動の後、東ヨーロッパの広大な地域にはスラヴ人が拡散・定住した。このうち東スラヴ、すなわちのちのロシア人は、9世紀ノルマン人の首領リューリクの支配下に国家を建設した。これがロシア史上最初の国家とされるが、やがてこの国は ① 川流域のキエフにその中心を移しビザンツ (東ローマ) 帝国との交易で栄えた。⁽¹⁾10世紀末、このキエフ公国の君主 ② は、ビザンツ皇帝バシレイオス2世の妹と結婚し、このときギリシア正教に改宗し、ビザンツの文化や政治体制をとり入れた。しかし11世紀後半以降内紛のため国力は衰え、13世紀になると東方から ③ の率いる⁽²⁾モンゴル人が侵入し首都キエフは破壊された。モンゴル人は南ロシアにキプチャク=ハン国を建て、ロシア人はその支配下にはいった。しかしやがてモスクワ大公国が交通路の要地を占めて発展しモンゴルの支配をおびやかすはじめ、15世紀後半イヴァン3世は、モンゴルへの貢納を拒否して「タタールのくびき」のもとから脱した。16世紀にはイヴァン4世によって中央集権化が進められるが、その後帝位をめぐる内紛の末、1613年にロマノフ朝が成立した。